

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

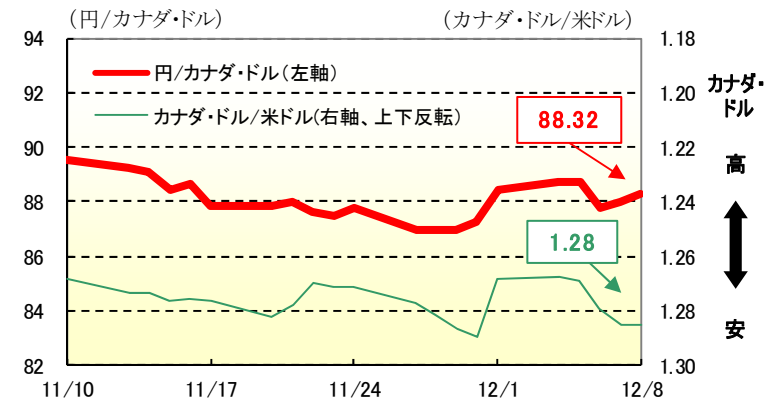
【2017年12月2日～2017年12月8日の推移】

### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円はほぼ横ばいとなり、カナダ5年国債利回りは小幅に低下しました。

週前半は、米国金利に連れたことや、発表された貿易収支の赤字幅が原油価格や輸出額の回復を背景に市場の予想以上に縮小したことなどが、金利やカナダ・ドルの上昇圧力となりました。その後、週半ばに、政策金利が発表され、据え置きとなりました。声明文で、カナダ銀行は利上げを継続する姿勢を示しましたが、市場の追加利上げ期待をさらに高めるような内容ではなかったことなどが、金利低下やカナダ・ドル円の下落圧力となりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年11月10日～2017年12月8日)



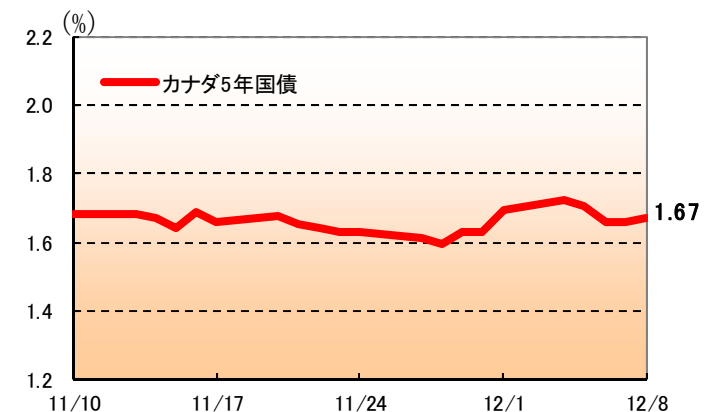
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

足元、原油価格は多少の調整を交えつつも堅調を維持しており、世界有数の産油国であるカナダの通貨下支え要因になると考えています。

今週、カナダでは特段重要な経済指標の発表は予定されておらず、市場の注目は米国のFOMC(米国連邦公開市場委員会)に集まるとみています。市場では利上げ予想が優勢であり、すでに織り込みが進んでいることから、声明文などによる今後の利上げペースに対する示唆が注目材料です。追加利上げ期待が高まる結果となれば、米国金利に連れて、カナダの金利上昇圧力になると考えられます。

【カナダ 金利推移】 (2017年11月10日～2017年12月8日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>